

令和 7 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 5 日

札幌市立 北都小学校

1 今年度の重点目標

自分で考え、選択、決定し行動できる子どもの育成

2 本年度の経営方針

すべては自律した子どもを育てるために

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	道徳教育の推進	子どもは、自分や他者を大切にし、温かな言葉で話すことができているか。	A	道徳教育の推進において、一人一人の子どもを複数の教諭が指導する体制を構築し、多くの視点からよさを見とり、評価することで、温かな雰囲気为学校づくりに努めたところ。次年度は、持続可能な取組に改善するとともに、子どもの呼び名に呼称を付ける取組を実施し、より一層、心の育成を進める。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		学習において、子ども同士が考えを聴きあい、笑顔で交流する場面が随所にみられることから、温かな雰囲気の学校づくりが進んでいることが伺える。言葉を大切にしたい取組が次年度もより一層深化することを期待する。				
人間尊重の教育	教職員自らの人間尊重の意識の向上	子どもは、「自分が大切にされている」と実感できているか。	B	教育活動において、頑張りを称賛することを大切にし、自信をもてるよう指導してきたところ。今後は、「課題探究的な学習」と「自治的な活動」の両輪において、子ども一人一人の声を聞き、その内容が反映されることで活動の充実を図り、所属感や自己肯定感を高める。	B	A
「学ぶ力」の育成	「課題探究的な学習」の実現	子どもは、学習を通して、「分かる」「できる」「楽しい」と手応えを感じているか。	B	今年度は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に取り組み、子どもの学びが楽しいという一定の成果を得た。次年度は、学校でしかできない「協働的な学び」により学びを深めることができる美感を一人一人の子どもがもてるよう授業改善に取り組む。	B	A
「豊かな心」の育成	いじめの防止と命を大切に教育	子どもは、優しさと思いやりのある行動をしているか。	A	様々な教育活動において、一人一人が温かい雰囲気のなかで支え合う風土を醸成することができた。次年度は、一人一人のよさや気持ちの変化に寄り添うことができるよう、他者理解の取り組みを充実していく。	A	A
「健やかな体」の育成	運動機会の創出	子どもは、運動する機会を見付け、進んで体を動かしているか。	A	子どもが休み時間に目標をもって運動に取り組むことを通して、運動機会を創出してきた。次年度においても、体育館やグラウンド、特別教室の割り当ての工夫を行うとともに、新たな運動の場を設けることで、子どもが体を動かすことの楽しさを感じることができるようにする。	A	A
いじめ対策	校内いじめ対策組織の機能	「チーム学校」として、組織的ないじめ対応を行っているか。	A	校内いじめ対策会議を適宜開催し、子どもの人間関係の把握に組織的に取り組むとともに、保護者と連携し、迅速に解決に向けた指導を行った。次年度は、取組の継続とともに、いじめの未然防止の取組として、豊かな心の育成に取り組む。	A	A
一貫性・連続性のある教育 (小中一貫した教育)	学校・家庭・地域の連携	学校運営協議会を機能させ、コミュニティ・スクールの充実を図る。	A	学校運営協議会を開催し、子どもの育ちを継続して支える仕組みを整えることができた。次年度は、子どもの声を学校運営に反映させる取組として、自治的な活動と学校運営協議会を関連付け、地域について一緒に考える機会の創出を図る。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		豊かな心の育成及び、いじめ対策において、未然防止の取組や組織対応の成果が見られ、重大ないじめ事案が発生していないことは評価できる。子どもの声を聞く取組を学校運営協議会に反映させるなど、学校、家庭、地域が一体となり、子どもを導いていく具体を考えていきたい。				
学校独自に設定する分野	子どもは、札幌の特色や魅力について学んでいるか。	A	札幌らしい特色ある学校教育「雪」「環境」「読書」において、スキー学習や雪遊び等の「雪」に関する学習及び、オリンピックミュージアムの見学等の「オリパラ教育」の充実を図った。次年度も、スキー学習の実施を含め、札幌でしかできない雪の学習に努めるとともに、札幌の施設活用やSDGs 未来都市札幌ならではの学びをとおして、「札幌っていいな」という心情をもてるようにする。	A	A	
	子どもは、端末を活用して学習を充実させているか。	B	1人1台端末を学習のツールとして使いこなし、学習の充実を図る意識の醸成を図ることができた。次年度は、学習場面において、適切な活用場面を考え、より効果的な使用方法を引き続き、検討するとともに、情報モラルの一層の向上に努める。	B	A	
	学びの多様化への対応	A	相談支援パートナーを活用したサポートルームを設置し、不登校傾向の子どもの学びの充実を図った。特別支援学級の教室配置を含めた学びの改善に努め、一人一人の状況に応じた学びの場の検討を行った。次年度は、校務分掌「学びの支援部」の機能充実を図り、より一層の学びの多様化への対応に取り組んでいく。	A	A	
学校関係者評価委員会による意見		多様な子どもを受け止め、支援の方策を講じていることが評価できる。学校だけではなく、家庭・地域もこれまでの学校像や子ども像から脱却して、子どもの現状を理解し、困りに寄り添い、社会的な自立に向けて、自己判断、自己決定する力を高めていくべきである。				